

広報部会員による 就業現場レポート (第21回)

お客様の大切なものを長く使っていただくお手伝いで
よみがえる思い出の品々

リフォームの匠が語る仕事の魅力

洋服リフォーム

洋服やバッグ、小物に至るまで、愛着の品々をよみがえらせ、
「リフォーム」の現場から生み出される作品。

持ち主の思い出をつなぐ大切な役割を担っている会員の方々に
お話を伺いました。

洋服リフォーム (令和7年6月末現在)

就業会員 4名 (ローテーションで1日3名体制)

就業場所 東陽作業所 (江東区東陽5-16-13 東陽児童館内)

問合せ先 03-3649-3523

自分たちで作った
お揃いのエプロン

取材日に就業の皆さん



工業用ミシン作業



採寸で使用する
マネキン



寄付していただいた糸



仕上げのアイロン掛け作業

Q. この仕事をするようになったきっかけを教えてください

- A. 昔から縫物が好きだったので、好きなことを仕事にできるのは嬉しい。
この仕事を知ったきっかけは、同じマンションに住んでいた方が教えてくれました。

Q. この仕事のやりがいについて教えてください

- A. ① お客様に「また着られるようになって嬉しい」と喜んでもらえるのが一番ですね。
② 昔から大切にしているものを「捨てられないから直して欲しい」とお持ちいただく方が多いんです。
特に、娘さんから貰ったものとか、思い出の品だと「何とかしてあげたい」という気持ちになりますね。完成して「仕上げがきれいにできている」と言われると本当に嬉しいです。

Q. 印象に残っているエピソードはありますか

- A. ブランド品のジャケットの裏地を何万円もするスカーフを使って総取り換えしたことです。もう失敗できないと、ものすごく緊張しました。きれいに仕上がった時は達成感も大きかったです。

お揃いの手製エプロンをかけて、お客様の「どうしても直して欲しい」という熱意や要望に応えようと丁寧なお仕事をされていました。リピーターのお客様が多いのも納得でした。気になる洋服をお持ちの方は、ぜひ一度リフォームの依頼をしてみたいはいかがでしょうか。